



Kusatsu International  
Friendship Association  
http://www.kifa-japan.org

No. 116  
2016.11.1



# KIFA スクウェア

[編集]草津市国際交流協会

## ボランティア説明会 国際交流はじめての1歩 ハートがあれば心は繋がる



8月9日市民交流プラザ和室で、KIFA初めての取組であるボランティア説明会「国際交流はじめての1歩」が開催されました。会には初めての方を含め沢山の方が参加いただき、KIFAの現状、ボランティアの話しに熱心に耳を傾けて頂きました。

8月9日18:30より草津市民交流プラザ(フェリエ5F)和室で、KIFA初めての試み「ボランティア説明会」が開催されスタッフ含めて40名が参加しました。

「KIFAの活動内容が良くわからない?」「どうしたら活動に参加できるの?」「ボランティア活動をするのに何か制約はあるの?」…初めての方には???の世界です。

この壁を乗り越えてもらい、参加いただける方を少しでも増やすために「国際交流はじめての1歩 ハートがあれば心は繋がる」を開催しました。

最初にKIFAの4つの部会「国際交流・国内交流部会」「国際理解部会」「多文化共生部会」「広報部会」よりその活動

内容を話してもらいました。

その後交流タイムとして、4つのテーブルに分かれて軽食を皆で楽しむころには、あちこちで談笑の輪が広がってきました。各テーブルには、立命館大学の「シチズンシップスタディーズ」「BKCサービスマスター」の学生が加わり、外国人留学生、子育てママさん達、定年後の活動の場としての国際交流に興味を持たれている方達と幅広い年代の方々が集い、サンドウィッチを食べながら大きな交流の輪が広がっていききました。

中国人留学生の単君の二胡の演奏を楽しんだ後、テーブル対抗のビンゴ

ゲームをしました。

このビンゴゲームでは数字の代わりに、草津市にはどの国の出身の方が多いのかを予想してその国名をビンゴカードに書きこんでいただきました。最後に3チーム同時に「ビンゴ」となり大変盛り上がりました。ちなみに、草津市に一番多いのは中国出身の方です。

その後、皆さんのKIFAに対する疑問・質問に対して関係者が回答するという形式でKIFAに対する理解を深めていただきました。

KIFA活動の広報を進め、参加者を一人でも増やしていく活動、今後も続きます!

(事務局長 浦 幹夫)

# アジアDAY

「ASIAをちょこっと見せていただきました」

去る7月23日、国際理解講座「アジアDAY」に参加した。午前はインドネシア料理を作る教室、午後はバングラデシュとインドネシアの紹介の講演会だった。

インドネシア料理の先生はスラメットさんで、今回のメニューは彼の家庭のカレー（ジャワカレー）、テンペの素揚げ、ゆで野菜のピリ辛ピーナツソースがけとカボチャとバナナの甘いスープだった（おまけでナシゴレンによく添えられているエビ煎もあった）。

カレーの材料は鶏肉・ねぎ・ニンニク・エシャロット・スパイス・ハーブ・ココナツミルク。鶏肉はぶつ切りしたものを洗って浸るくらいの水からゆでた。鍋に入れる時に、細かい血の塊がアクになるなと思ったものを省いて入れていると「どうして入れないの、これも入れて」と先生の声かけが。どうやら全て出汁になるらしい。言われるまま鍋に入れ、ぐつぐつ煮ていった。そこにコリアンダーと胡椒、ニンニク、エシャロットをすりこぎ（インドネシアの石製の物）で潰したものとハーブを入れて更に煮、ターメリック・ココナツミルクと丸太切りの葱を入れ一煮立ちさせて出来上がった。

2時間であっという間に全て出来た。みんなで試食。お米はハーブとココナツミルクを少し入れて炊かれていた。まずカレーライス。何て爽やかなんだろう。カレーの色はハーブの緑が薄く出てターメリックとココナツミルクの色が混ざり合い、蛍光イエローみたいな色になっていた。味は鶏肉の出汁が良くきいて美味しかった。インドネシアで食べている姿が臉に浮かんだ。そしてゆで野菜用のピーナツソースだが、かなりのくせ者だ。カレーが箸休めになるくらい辛い。味見をせずに野菜に一杯かけた人がギブアップしていた。カボチャとバナナの甘いスープはバナナが完熟の方が好みだなと思った。ヤシの木の赤砂糖を入れて煮ていたが、

バナナは日本のスーパーで買うとだいたい若いものだから



酸味が立ち、甘さが足りなかった。最後にテンペ。塩味がきいて、メニューの中では口に入れると一番ホツとするような感じだった。

みんなお腹がいっぱいになって、次の講演会の時間になった。午後の部はバングラデシュとインドネシアの紹介だ。

バングラデシュと言うと日本と似た国旗を思い出す。紹介者のロフィック・イスラームさんは国旗の説明をしてくれた。赤色の円は国が独立する時に戦った人々の血の色で、円の周りの緑色は国の大地を表わしている。イスラム教徒が多いので、ラマダン後のお祭りの話をしてくれた。お祭りの日は朝からご馳走（甘いもの）を食べ、近所の広場へ繰り出す。集まって来る人は顔見知りなので皆とおしゃべりをし、その流れで友人の家へ遊びに行き楽しいひと時を過ごすそうだ。見せてもらった写真は代表的な様子を写したもので、大勢の人が広場に集まってごったがえしていたものだった。そして驚いたのが、意外に世界遺産が多いことだ。時間を忘れてずっと眺めていたくなるくらい、自然が豊かで美しい場所の写真を見せてもらった。

インドネシアの紹介は再びスラメットさんだ。彼の地元の話の後、民族衣装を着てインドネシアの踊りを見せてくれた。この踊りはお祝いの時にするもので、踊る人が鬼の面を被り、鬼はその場の悪いものとして扱い、それを追い払うという踊りだそうだ。インドネシアの踊りを生で見られて少し旅行気分になり、嬉しかった。

今回はお二人の母国に触れることが出来て、アジアの二ヶ国だけでも奥が深いなあと思った。私はきちんと母国の説明ができるだろうか。海外旅行経験者は年々増えていると思うので、一人ひとりがそう思い母国を感じる時間を持って欲しい。

（KIFA会員 とかちふ）



# アフリカのトーゴ共和国で、 人々の笑顔に出会い、 心の豊かさに触れる

未知の国「トーゴ」。  
そこでの素晴らしい体験について、栗東国際協会の辻旺一郎さんに投稿していただきました。



## こんにちは。Ofoan!(オッフアン!)

僕は、昨年の4月からヒッポファミリークラブの海外インターンシッププロジェクトでトーゴ共和国に渡り、トーゴ共和国を中心に西アフリカで8カ月間生活していました。

20歳の節目に、日本で生まれ何なく育った自分の考え方、感じ方を見直したい!周りの人がしていないことをしたい!日本語がないところで自分一人で何ができるかを試したい!そんな若さMAXの思いを持ちながらトーゴに行くことを決めました。

何の心配もすることなく、「何とかなるだろう」と根拠のない自信と共に出発しました。

## 「!？」

根拠のない自信と共にトーゴに着きましたが、言葉が分からない上に日本での生活と違いすぎて何をしているのか、周りで何が起きているのか分かりませんでした。「何という町に住んでいるのだろう!?!」「今僕は何を食べているのだろう!?!」「どこでお風呂に入るのだろう!?!」「そもそもお風呂はあるのだろうか!?!」「今日街を案内してくれた人は誰だったのだろう!?!」またトーゴ人みんなが同じ顔に見えたので「この人は昨日会った人!?!それとも初めての人!?!」など挙げればきりが無いほどの「!?!」で生活が埋め尽くされました。

## なんとかしないと

そんな「?!」が3日続くとだんだん気が減ってきて、根拠のない自信はどこかに飛んでいきました。「このままではまずい。これではここでは生活できない。何とかしないと。」トーゴに来てからやっと「何とかしないと。」と思うようになりました。(遅い!)

日本人、アジア人が周りに一人もいない中、トーゴ人が話す言葉を真似し、しぐさを真似し、やることを真似するなど、とにかく一生懸命トーゴ人の真似をしました。

すると、猛スピードでトーゴの言葉を覚え、手で洗濯もできるようになり、手でご飯も食べられるようになり、トーゴ人に近づけました。

## トーゴの当たり前に魅了される

言葉が理解できるようになって、生活に順応できるようになるとトーゴ人の考え方や感じ方が分かるようになってきました。知らない人を家族のご飯に招いたり、通行人を結婚式に参加させたり、出会ってすぐに兄弟になったり、がトーゴの当たり前でした。同じ村、同じ町、同じ国にいるのになんで挨拶しないの?声かけないの?友達にならないの?そんな事をよく言われました。

日本人も地元を離れた先で同郷の人と出会えばその人が知らない人であってもとても親近感が湧くと思います。その親近感を同じ町に住んでいる時から持っているのがトーゴでした。トーゴの人たちから心の豊かさを教えてもらいました。そんな人と人の絆が強いトーゴに一人でも多くの日本人に行ってほしいです!

## これから

大切なことを教えてもらったトーゴのことを日本に伝えていきたいです。日本でトーゴのことを知っている人は多くなく、トーゴで日本のことを知っている人も多くありません。「トーゴを伝え、日本を伝える。」この言葉をテーマに息の長い活動をしていきたいと思っています。

(栗東国際協会 大学3年生  
辻 旺一郎)



◎トーゴ共和国の全国民730万人に向けて「日本文化のドキュメンタリー番組」放送するプロジェクトを立ち上げこの冬から放映決定

経済発展した日本だからこそ分かる文化の継承の仕方などを、経済発展の最中にあるトーゴ共和国に伝えます。日本を知らないトーゴの人たちに日本を伝えます。

◎トーゴ共和国への想いとアフリカの笑顔を掲載したエッセイ・写真集を発行  
「これがトーゴだ。」

辻 旺一郎著

大垣書店、  
本のがんご堂守山店、  
amazon、  
他書店で発売中



# 滋賀県ミシガン 友好使節団に参加して



8月24日～31日の期間に滋賀県より派遣されたミシガン州友好使節団！そこに草津市より4名の方が参加されました。その4人の方の貴重な体験記です。2018年にはポンティアック市との姉妹都市締結40周年記念事業も計画されていますので楽しみにして下さい。



## やりましょう！新しいポンティアック市交流

第21回滋賀県ミシガン州友好親善使節団に36年ぶりに参加しました。36年前というと1980年。第2回県使節団で、草津市とミシガン州ポンティアック市が姉妹都市提携を結んだ1978年の2年後に当たります。

今回の訪問は、デトロイト空港からバスでミシガン州の州都ランシング市に入りました。町の景色を見て36年前の記憶がよみがえり、その後の姉妹都市交流やその時お世話いただいた人たちも大変懐かしく頭の中でたどることができたのはうれしいかぎりでした。

暫くポンティアック市との交流が途絶えていましたので、渡航前は、ポンティアック市での交流活動に一抹の不安があったことは事実でした。しかし、訪問の直前からメールなどでポンティアック市での滞在予定表が届くなど、その不安は楽しみに変わりました。その内容は、日ごと、時間単位で組まれており、ポンティアック市関係者が私たちを迎えるためにそう調整をしてくださっていると感じられるものでした。

ポンティアック市では、ホストファミリーと予定通りに大変楽しく町の現状を見聞し、友好を深めました。ここでは、特に印象に残ったプログラムを紹介します。

8月25日の歓迎レセプションでは、地元のロータリークラブがスポンサーとなって、屋外でポンティアック市、オークランド郡、ポンティアック教育区、ホストファミリー、ポンティアック姉妹都市クラブの関係者が参加して、モータウンコンサートを交えて一緒に楽しみました。

8月26日には、1982年に草津市が友好の証として贈った「草津の庭」の移設記念式典があり、ポンティアック市役所の横にすだれ松の記念植樹と自然石の設置で、私たちがメインゲストとして参加し、当時草津市が贈った春日灯籠と雪見灯籠の位置を決めるなど、地元の新聞やテレビに報道されました。この庭は本格的に日本庭園の構想で、その起工に立ち会えたことは大変名誉なことであるとともに、新しい姉妹都市関係の出発記念となる思いがしました。

8月28日には、これまでの交流活動でお付き合いのある友人たち25人が、私の歓迎パーティーを自宅で開催くださり、友情の確認と今後のお付き合いを楽しく話し合えたことはこの上ない喜びでした。

8月29日にポンティアック市を離れましたが、ポンティアック市滞在中、空き時間を利用して私の興味のある所をホストの方に案内いただきました。図書館、小学・中学生高度教育センター、地域市民センター、教育農場、アンダーグラウンドレイルロード、モータウンミュージアム、タイガーススタジアム、オークランドヒルズカントリークラブ、地域住民最良のハンバーガー・ドーナツ・ピッツァ・ギフトショップ、ホストファミリーの近隣住宅の訪問で、多くの方と友好を深めることができ心に残るお土産となりました。

2018年はポンティアック市との姉妹都市提携40周年を迎えます。私も微力ではありますが、これまでの姉妹都市関係の歴史を踏まえ、また、知り合いになった人々たちへの感謝をこめて、新しい交流活動に尽力したいと思っています。

(滋賀県ミシガン州友好親善使節団・KIFA理事 青地 正記)

## 滋賀県ミシガン州友好親善使節団派遣に参加して

平成26年に大学生の息子が同プログラムに参加したのがきっかけでした。翌年、その時のホストファミリーのリーさんとメアリーさんご夫妻がミシガンからの使節団員として滋賀県に来られた時、今度は私達がホストファミリーになりました。その後も、簡単なメールのやり取りで交流を続け、今回はご夫妻の熱烈なお誘いもあって、私がこのプログラムに参加しました。

リーさんの住んでおられるロイヤルオーク市はデトロイト市郊外で、比較的治安が良く、自然の多いところでした。リスが庭の木を登り、枝から家の屋根へ飛び移ったかと思えば、道路を横断して別の木へ、そんな光景が日常的に見られるのです。

ホームステイの5日間、自然公園や動物園、グリーンフィールドビレッジ、ヘンリーフォードミュージアム、DIA美術館などいろんなところに連れてもらいました。図書館の現役館長であるメア

リーさんのメンバーカードを見せるとご夫妻とゲスト2人の入場料やアトラクションが無料になります。年会費は少し必要とのことでしたが、福利厚生充実とベテランホストのリーズナブルにゲストを楽しませる技に感心しました。そしてお二人は自然や歴史に精通しておられるだけでなく、施設ができたときの背景や維持していく困難と対応策、実際に自分たち市民がどのように協力しているかを説明してくださいました。通常の旅行では得られない貴重な経験になりました。

ポンティアック市長や市議会の面談の際にはKIFAで用意していただいた名刺がとても役に立ち、また、ホストファミリーへのお土産も大好評でした。細部にわたるお心づかいに感謝しています。今後とも素晴らしい姉妹都市交流が続くことをお祈りします。末筆になりましたが、関係者の皆様、ありがとうございます。

(滋賀県ミシガン州友好親善使節団・KIFA会員 増井 智晶)



## 初めての異文化体験!!

このプログラムに参加して私の世界観は瞬間に広がったと思う。母に勧められこのプログラムに参加した当初はとても憂鬱で初の海外に不安を抱いていた。しかしホームステイの日々はその不安が杞憂であったということが思い知らされました、とてつもないスピードで過ぎていった忘れられない4日間だった。他人はたった4日間という時間ではあまり何もできないと思うだろう。私も当初はたった4日間では味気ないものなんだろうなと思っていた。

しかし実際はそのたった4日間で私にとって新たな家族ができた。それが今回ホームステイさせてもらったシールズ一家である。シールズ家にはノリノリで陽気なママさんのサブリーナ、笑顔がとても素敵なダディのスティーブ、優しさがしみ溢れ出ている大学生のジュリアン、ユーモア抜群の高校生のジェイダなど個性的でとても明るい人々が集まっている。主に私と行動してくれたのがこの4人であった。また、山田理香子さんとそのホストファミリーのジェントルマンなジョンといつでも元気いっぱいなスーザンとも一緒であった。

あの4日間で野球場やショッピングモール、とてもきれいな五大湖の一つのヒューロン湖など日本ではまず見ることも、感じることもできないようなたくさんの場所へ私と山田さんを連れて行ってくれた。その中でも私にとってやはりヒューロン湖が印象深い。そこで水着を借り、湖を楽しんだ。やはりその規模というものは琵琶湖でさえも比ではなく、貿易のためだと思われるとて

つもない大きさの貨物船が通行しており、湖なのに灯台があった。その湖は琵琶湖とは何もかもが違い、私はまるで異世界に連れてこられたかのような気分に陥らされた。そして私がお湖を訪れて何よりも感動したのは湖の水の清らかさだ。この清らかさを見ると感動と同時にその透き通ったきれいな水からは現地の人々の湖を大切にしようという意志が感じ取ることができた。私たち滋賀県民はこのことを見習わなければならないのではないだろうか。

さて、やはりこのプログラムを通じて私が痛感させられたものは「人情」というものであった。この「人情」は日本のものとは全く違うものであるが実に良いものであった。それを痛感した時というのが現地の人々と出会った瞬間である。日本人なら初対面の人間とはまずこんなにもフレンドリーに接することはできないだろう。ここで異文化というものを肌で心で感じ取ることができ、とても興味深く思った。その結果、日本に固執していた私はずっと異国に行ってみて様々な日本とは異なった文化を肌で心で感じたいという異文化理解の考えが芽生えて、少し大きくなったなと我ながら思う。

最後になったが、このプログラムに心から参加して良かったと思う。また、このプログラムにまたもう一度参加したいとも思う。このプログラムが自分の人生の大きな糧となり、自国にしか興味を持てなかった自分を良い方向に変えてくれた。次回には自分の英語力や対応力、人間力などを磨き、より深い異文化交流をしてみたいと思う。

(滋賀県ミシガン州友好親善使節団 曾田 紳嗣)

## ホームステイの思い出 ホームステイ先：ラビーア

私は、学生のうちにどうしても海外に行ってみようという思いで、ミシガン州友好親善使節団に参加しました。初めての海外だったので行く前は少し緊張していましたが、ミシガンでは本当に楽しい時間を過ごすことができました。私がホームステイしたのはラビーアというポンティアックから車で1時間ほど行った少し田舎にある町です。ホストファミリーはとても優しくて親切で私のつたない英語もゆっくり聞いてくれました。私のホストファミリーと、草津市から一緒に来た方のホストファミリーの仲が良く、基本的に一緒に行動していたので英語に不安がある中でも心強かったです。ホストファミリーがたくさん家族や友人を連れてきて紹介してくれ、覚えるのが大変でした。

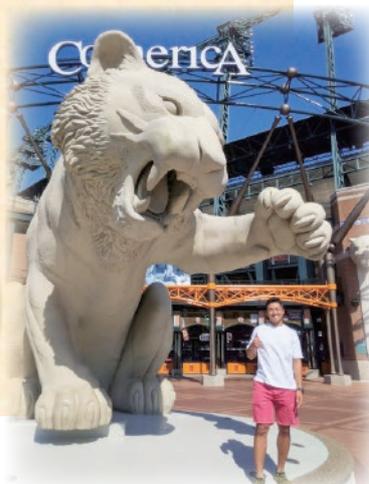
ホームステイの初日には、市長さんや議会の方々など多くの方に歓迎され、市役所のお庭に日本庭園を作られるということで松の植樹を行いました。完成した日本庭園が楽しみでいつか見に来ることができればいいなと思います。

自由日には、私は野球が好きなのでMLBの野球を見に連れていってもらいました。日本のものとは違う球場の雰囲気や応援にとっても興奮しました。英語でのヤジが興味深かったです。試合後には花火が打ちあがり感動しました。違う日にはヒューロン湖に連れて行ってもらい、泳いだり灯台に上ったりピクニックをしたりしてとても楽しい時間を過ごしました。ヒューロン湖はとてもとてもきれいで大きな湖で本当に海なんじゃないかと思ってしまうほどです。私はMLBの野球を見に行くことを一番楽しみにしていたのですが、あまりにもヒューロン湖で遊ぶのが楽しくヒューロン湖が最も今回のホームステイで記憶に残っています。他に

は、家でキャンプファイヤーをしたり、スーパーやショッピングモールに買い物に行ったりなど、普通に観光で訪れるだけでは分からないミシガンで暮らす人々の生活を体験できてとてもよかったです。

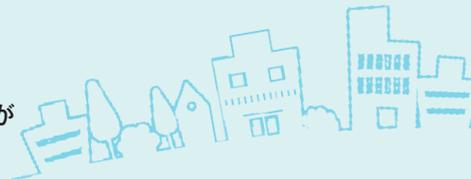
最後に、私が今回のホームステイで一番うれしかったことは、ホストファミリーとのお別れのときにホストファミリーが「You have two extra mothers.」と言ってくれたことです。お別れはとても寂しかったのですがこの出会いを大切にしまいたいつか絶対にホストファミリー達に会いたいと思います。初めての海外がこんなにも素敵なものになったことが本当にうれしく、ミシガンで過ごしたあの1週間はききとずっと私の大切な思い出です。2年後、この滋賀とミシガンとの友好関係が40周年になると聞き驚くと同時に、この関係がずっと続いてほしいと強く思いました。

(滋賀県ミシガン州友好親善使節団 山田 理夏子)



# シチズンシップ・スタディーズ

今年度より立命館大学との間で結ばれた「シチズンシップ・スタディーズ」により2名の学生が正規授業としてKIFA事業に参加してくれています。彼らより見たKIFA事業とは？



## 学生の視点からボランティアというものを見つめる

### 自己紹介

わたしたちは立命館大学の正課授業としてKIFAの方々の協力のもと、ボランティア活動に参加している立命館大学の学生です。私たちはこれまでに既にいくつかのイベントに参加させて頂きました。

### アジアDAY

スラメットさんにインドネシア料理を教えてくださいました。数種類のスパイスを混ぜたカレーとドレッシング、カボチャのデザートを作りました。カレーはとても甘く癖になる味がしました。サラダはドレッシングの辛味が効き、独特な味がしました。Tempehというインドネシア風納豆とえびせんべいを揚げて、ココナッツミルクで炊いたもち米と一緒にいただきました。料理の後は、留学生が自分の国を紹介しました。「バングラデシュ人はフレンドリーで、おしゃべり好きで、人懐っこい良くも悪くもうるさいですが、日本人は静かで人付き合いが薄い」、モハメドさんはこの国民性を雨の降り方に例えて表していました。最後にスラメットさんが民族舞踊を披露しました。

### 「世界と出会う交流広場」第一回、第二回会議

私たちのメイン活動として11月13日に「世界と出会う交流広

場」という大人も子どもも楽しみながら外国の文化を学ぶことができるイベントがあります。このイベントを目標にKIFAの方々、RIFA、MIFA、JICAなどたくさんの団体、人々と協力しながら成功するように計画を練っています。そのために、定期的みなさんと集まり市役所で会議をしています。既に2回開いており、イベント会場のレイアウト、電気配線、出演者、広報、必要な資材など着々と決まっています。私たちは社会人の方々と会議するのは初めてで第一回会議では緊張もしていましたが、私たちの意見により工夫を加えてアドバイスをもらったりしたので自分たちの意見も言いやすい環境でした。当日、イベントを必ず成功させたいのでそれまでに“学生”としてできること、特にキャンパス内での広報、自分たちで企画したブースに尽力します。みなさま、ぜひ栗東駅前まで足を運んでいただいて外国文化に触れてみてください！

### これまでに学んだこと、今後の取り組み方

これまでのイベントで私たちは異文化を学ぶことの楽しさやイベントの関係者の熱意と企画力、直接感じる事が出来ました。その中で私たちの役割というものがはっきりしていきそれを最後まで果たそうと今努力しています。今後のボランティアの取り組み方についてやはり学生からの視点というものが大事だと感じました。新しいアイデアをどんどん考えていきそれを発信できる能力は養っていきたいと感じています。

(シチズンシップ・スタディーズメンバー 三宅 良輔・小林 将太)

市内各地で運動会が開催された10月2日、第3回ディスカバリーカフェとして『インターナショナルお芋掘り』を行い、総勢4カ国22人が参加しました。

自家用車で来る人達と路線バスで来るチームの待ち合わせ場所は、“砂ずりの藤”で有名な三大神社。しかし、待てど暮らせど路線バスチームが到着しない！そんなこんなしている間に副会長の中西さんからLINEメッセージが…「琵琶湖博物館まで行ってしまった！」草津のバス路線は複雑。乗り合わせたバスは琵琶湖博物館経由の三大神社方面行きだったのです。これもいい思い出ですね！

無事に皆が集合し、昨年に引き続きお世話になる前会長 白井さんのご親戚のお宅で少し休憩してから、いざイモ畑へ！まずはじめに白井さんから「芋のツルが生えている下にお芋が埋まっているんだよ～」と手ほどきを受けて早速掘ってみると…出てきました！持ち上げた茎に、大きくて色鮮やかなお芋が3つも4つも繋がっているのを見て、みんなテンション上がりまくり。ひと通り掘りつくして、男性陣がシャベルで掘り残しのお芋がないかを探している頃、中西副会長のひと声「芋のツルはきんぴらにすると美味しいのよ！」にビビッときた主婦陣は、その調理法に耳を傾けながら芋のツル集めに精を出し、普段は捨てられることの多いツルの部分も余すところなくお持ち帰りいただきました。

畑には焼き芋用のもみ殻も準備していただいており、掘りたてのお芋を焼き芋に。焼きあがるまでの間、白井さんのご親戚宅で



昼食をとらせていただきました。炊き込みご飯や鯖寿司、もちもちの白玉団子とナポリタンスパゲッティなどを用意していただき、本当にありがとうございました。焼き芋も何とか時間内に焼き上がり、ホクホクでアチアチのお芋をいただくことが出来ました。

日本語が上手な人も片言の人も、何の垣根もなく、みんなが同じ時間を共有できた今回のお芋掘り。共同作業で汗をかき、お料理をみんなでいただきながらワイワイガヤガヤ交流すると、そこにも多くの発見がありました。実はご近所だった、ネイルが出来るよ、4カ国語喋れます、太極拳が先生レベル！等々…と、どんどん繋がっていきます。これぞディスカバリー・カフェ！色んな価値観を持った人と繋がり認め合うことで自分の世界がちょっとずつ広がっていく、これが国際交流の醍醐味なのだとは私と思っています。いただいたお芋を家族と一緒に食べながら、次回の『ディスカバリー・カフェ』ではどんな出会いと発見を待っているのか、今から楽しみにしている私です。

**【追記】後でみんなで太極拳に挑戦しようと思っていましたが、時間がなくなり今回は断念。マジェさん、次回の楽しみにおきます！**

(KIFA多文化共生部会 副部長 鶴田 真理子)



# 他団体紹介

今号よりKIFAとの関係の深い草津市で活動している団体を紹介します。  
第1弾として日本語教室「オリーブ」を紹介します。

## 日本語教室 オリーブ

ホームページアドレス <http://www.ne.jp/asahi/olive/kusatsu>

私たちオリーブは、日本に住む外国の人たちに日本語を教えるボランティアをしています。授業は毎週土曜日の午後7時から午後8時40分まで、草津市立まちづくりセンターで行っています。いつもは40人ほどの生徒を15人くらいの先生で教えていて、多い時には50人近く生徒が集まることも。毎回活気に溢れている教室です♪

オリーブ内では「ひらがな・カタカナ・漢字」「日常生活に役立つ内容で初級・中級」「日本語能力試験対策」など、勉強内容別に班を細かく分けています。また、「関西弁講座」「敬語講座」「郵便局での荷物の受取方」のように、教科書だけでは学びにくいことを楽しみながら身につける講座も開いています。しかし何と言っても一番楽しいのは春のお花見と秋の遠足！班が違って普段はあまり話せない人ともおしゃべりできる良いきっかけにもなり、日本の名所や文化、食べ物…はたまた生徒手づくりの母国料理を食べ合いっこできることもあります。『まじめに楽しくワイワイと』がオリーブのキャッチコピーかもしれません。



### ～プチ自己紹介・勉強の感想～

#### 金美敬(キム ミギョン)さん(韓国)

日本へ来てからそろそろ一年になります。いろんなところへ行って、いろんな経験をして楽しかったです。日本らしい文化をもっと知りたいです。後もう一年、今までのように楽しく過ごしたいです。



#### エコ・ワヒユリさん(インドネシア)

日本語は楽しいです。日本語は難しいけどおもしろいです。私は日本が好きです。

#### ファム・ティ・メンさん(ベトナム)

私は日本へ来た時に日本語は少ししか分かりませんでした。オリーブを通じて先生は私に日本語と文化を教えてくださいました。私は通訳者になりたいです。



#### 王利成(オウ リセイ)さん(中国)

今は日本に来て二年半くらいです。日本の生活にも慣れました。日本はとてもいいところです。空気がきれいだし、道もきれいです。私は日本語はまだ上手じゃないです。でも日本語の勉強を頑張ります。

#### ベンジャミン・カーさん(アメリカ)

七か月前、宣教師として日本に来ました。日本はとても大好きです。日本の人々は優しいし、食べ物も美味しいし、自然もとてもきれいです。日本語を学ぶのは難しいですが、すごく楽しいです。それはオリーブでみなさんがフレンドリーだからです。



生徒も先生志望も大歓迎！気になる方は土曜日夜にまちセンへ！

オリーブ 草津

検索

## 案内 ポルトガル語による「くらしの相談」開催曜日変更のお知らせ

KIFA事務局の窓口では、毎週水曜日にポルトガル語による「くらしの相談」を行っていましたが、10月1日より毎月第2・第4木曜日の開催に変更となりました。KIFAのポルトガル語通訳者が市役所内での手続きのお手伝いや相談に応じますのでご利用ください。

- 日 時：毎月第2・第4木曜日 9:00～11:00
- 場 所：KIFA事務局(草津市役所2階 まちづくり協働課内)



## 案内 世界と出会う交流広場

栗東、守山国際交流協会と共催で「繋げよう!交流の輪」をテーマに開催します。「世界食べ歩き屋台」「民族衣装ファッションショー」「大道芸人パフォーマンス」「ステージパフォーマンス」に、「滋賀が いいもん市」が合体した楽しいイベントです。



- 日 時：11月13日(日)10:30～16:00  
ステージパフォーマンスは11:00～15:00
- 場 所：栗東芸術文化会館さくら前シンボル広場  
(栗東市糺二丁目1番28号)

## 募集 知ろう!世界の遊び ～KIFAファミリーイベント～

ママパパ交流コーナーもあります。国籍問わず友達をつくりに来てください!

- 日 時：12月4日(日)10:30～13:00(受付10:00～)
- 参加費：大人500円、小学生以上200円、未就学児無料
- 定 員：80名(事前登録制)
- 対 象：親子(未就学児大歓迎!)
- 場 所：草津市まちづくりセンター2階201・202会議室  
(草津市西大路町9-6)

## 募集 滋賀の自然と環境 体験バスツアー

留学生と一緒に行くバスツアーです。手織りの里「金剛苑」にて絞り染め体験・昼食(サガミ)・UCC工場見学・あいとうマーガレットステーションでのショッピングを予定しています。



- 日 時：11月27日(日)
- 参加費：一般4000円(昼食代・体験料込)  
KIFA会員・学生・外国人2000円(昼食代・体験料込)
- 申し込み開始日：11月1日

## 案内 たぶんカフェ・ファイナル

文化庁助成「生活者としての外国人」のための日本語教育事業の平成28年度事業。草津市内に住み、日本語教育を必要とする外国人にその機会をを広げ、地域住民と協働して多文化共生社会を創っていくための参加型のワークショップです。

- 日 時：平成29年1月15日(日)10:00～12:00
- 場 所：草津まちづくりセンター3階

## 案内 新春のつどい(開催未定)

KIFA恒例の新春の集いです。沢山の外国人の方達との交流を深めてください。

- 日 時：平成29年1月15日(日)13:00～15:00
- 場 所：草津まちづくりセンター2階

## 案内 メールアドレス登録と 変更のお願い

KIFAでは、イベントなどの案内をメール配信しております。新たにメール配信を希望される方、登録しているがメールが来ないという方、配信停止希望の方はメールにて事務局までご連絡をください。

- メールアドレス：kifa-japan@coda.ocn.ne.jp

## 案内 UDCBK『やさしい にほんご さろん』がオープンします!

南草津フェリエ・アーバンデザインセンターくさつ・びわこ(UDCBK)において、「やさしい にほんご さろん」が11月1日にオープン。

地域に暮らす外国人と日本人のためのゆったりとした交流さろんをめざします。

なかまづくり・日本語の学習・地域情報収集・課題解決などに活用してください。

- 日 時：毎週火曜日 10:00～12:00  
第3金曜日 18:00～20:00